

ハンドボール男子ユース

# アジア初優勝報告

藤代紫水高3選手 県教育長を表敬

ヨルダンのアンマンで9月に開かれたハンドボールの男子ユースアジア選手権で、初優勝を果たした日本代表(U-19)チームに参加した県立藤代紫水高の3選手が10月29日、県教育庁の柳橋常喜教育長を表敬訪問し、結果を報告した。



日本代表は開催国のヨルダン、インドとの3チーム総当たりの予選ラウンドを全勝で突破。決勝の韓国戦では、前半は強みのディフェンスを生かし6点をリード。後半に入ると優勝経験のある韓国が2点差まで追い上げたが、日本は26-24で振り切った。

県庁を訪れたのは藤井悠輔選手(3年)、大橋真人選手(同)、太田晴斗選手(2年)。3人は大会のほか、食事の話やホテルでの出来事など現地の様子について柳橋教育長と語り合った。大会MVPに選ばれた大橋選手は「チーム一丸となって優勝できた。将来はレベルの高い海外でのプロ選手になりたい」と夢を述べた。藤井選手と太田選手は「来年の世界選手権でもメンバーに選ばれるよう頑張りたい」と語った。

柳橋教育長は「経験を自分の人生にしっかり生かしてほしい」と今後の活躍を願った。

(川崎陸)

徒々県庁

アジアユース選手権優勝を柳橋常喜県教育長(右から2人目)に報告した藤代紫水高の生徒